

【びわ湖ホールの評価についての委託調査結果の概要】(H20年度調査:立命館大学政策科学部 村山皓教授)
(調査の方法:県民への意識調査を実施)

びわ湖ホールの存立

- ・ 県民にとっての存在感は大きい
- ・ 利用目的は舞台芸術の鑑賞に限定されていない。
- ・ 全国的な知名度は県の公的な文化施設の中では圧倒的に高い

びわ湖ホールの効果

- ・ 県民が捉えている文化的な効果
 - ・ 文化芸術に接する機会の提供
 - ・ 音楽や演劇の楽しさを伝える
 - ・ 文化や芸術を見る目を育てる
- ・ 社会的効果と経済的効果は、現時点では明確で大きなものではない
- ・ 他の公共ホールとは異なる存在感

びわ湖ホールの運営

- ・ 高度な芸術を志向する運営と採算志向の運営の二つの見方が交錯している。
- ・ 高度な芸術志向を求める者ほど公的機関の運営を好む傾向にある

【調査結果を踏まえての今後の運営方針】

文化的効果をさらに発揮していく【方策】

- ・ 独自の質の高い創造活動の展開
- ・ 若手芸術家との共同企画公演
- ・ 国内外の劇場・ホールとの共同制作・共同招聘
- ・ 身近で親しめる事業を増やす

社会的効果・経済的効果が目に見えるような事業展開を図る。

- 【方策】
- ・ 地域・団体と連携した秋の音楽祭の開催
 - ・ 声楽アンサンブルと地域との連携・協働
 - ・ 教育機関と連携した事業展開
 - ・ オープンカフェとの連携
 - ・ コンベンションの積極的な誘致など

経済的効果の試算

生産誘発額
23.6億円
パブリシティ効果
2.2億円

財団法人びわ湖ホール中期経営計画(第1期・改訂版)】(H21年度・H22年度 + H23年度から5年間の経営を見据えた計画)

基本方針 ~人々と地域と創造に開かれた劇場~

人々に開かれた劇場

- ・ 誰もが気軽に参加できる事業
- ・ 次世代の舞台芸術体験を増やす
- ・ 舞台芸術を学び、楽しむ人の晴れ舞台としての役割

地域に開かれた劇場

- ・ 地域の団体・企業等との連携
- ・ 声楽アンサンブルと地域との連携
- ・ 芸術家や地域の人などの舞台芸術を巡る様々な交流の場

創造に開かれた劇場

- ・ 独自の質の高い創造活動
- ・ 国内外のトップの芸術家の集うホール
- ・ 若い芸術家たちの連携と協働を進める
- ・ 国内外の劇場・ホールのネットワーク

